

SCREEN

株主通信

SUMMER 2019

2019年3月期

決算報告

事業紹介	1
株主の皆さまへ	3
業績・業績予想	4
連結決算ハイライト	5
セグメント別業績	6
主要連結財務諸表	7
役員一覧	9
2019年3月期の 主なトピックス	10

VOL.
109

Fit your needs, Fit your future

期待に応じて、未来を形に…

SCREEN NOW

証券コード: 7735

Our Business 事業紹介

世界トップレベルの製品を有する主要事業 有望市場に挑戦する新規事業



枚葉式洗浄装置※1
バッチ式洗浄装置※2・スピンスクラバー※3



世界シェア

No.1

SE:半導体製造装置事業
洗浄分野を中心とした半導体製造装置

CTP装置※4



世界シェア

No.1

GA:グラフィックアーツ機器事業
印刷関連機器

コーターデベロッパ―※5



世界シェア

No.1

FT:ディスプレイ製造装置および成膜装置事業
ディスプレイ製造装置および成膜装置

PE:プリント基板関連機器事業
プリント基板関連機器

直接描画装置※6



- ※1 ウエハーを1枚ずつ処理する洗浄装置。
- ※2 複数のウエハーを一括で処理する洗浄装置。
- ※3 ウエハーを軟らかいブラシと純水で物理洗浄する装置。
- ※4 コンピュータで制作したデジタルデータからダイレクトに刷版を作ることができる装置。
- ※5 レジスト(感光液)をガラス基板上に均一に塗布し、現像する装置。
- ※6 回路パターンおよびソルダーレジストを高速・高精細に直接描画(露光)する装置。

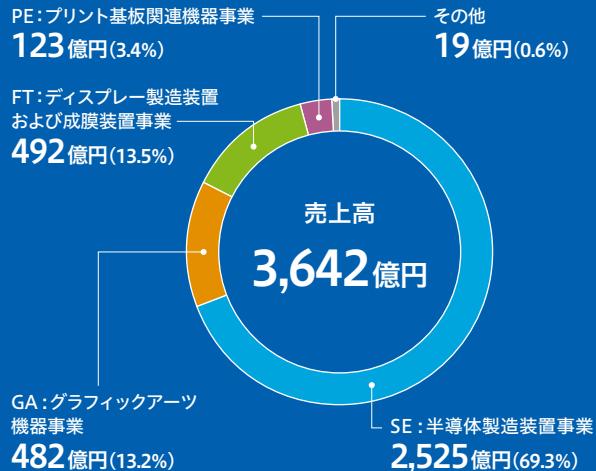
新規事業
検査計測分野/
ライフサイエンス分野

熱間鍛造部品
自動外観検査装置

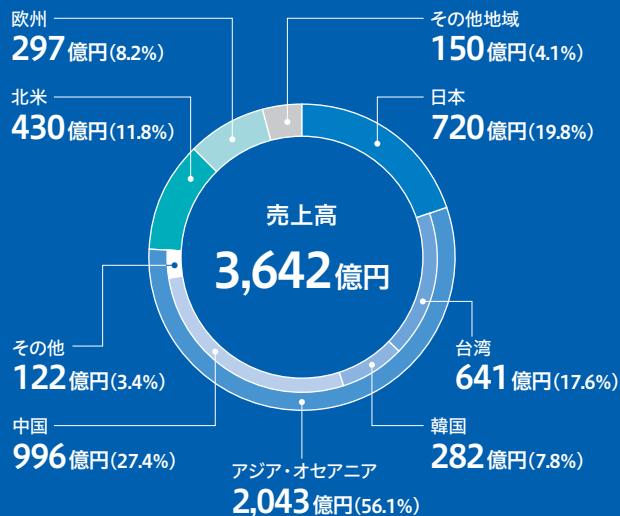




セグメント別売上高(2019年3月期)



地域別売上高(2019年3月期)



Top Message

株主の皆さまへ

株式会社SCREENホールディングス
代表取締役 取締役会長

垣内 永次



株式会社SCREENホールディングス
代表取締役 取締役社長
最高経営責任者 (CEO)

廣江 敏朗



新体制のもとでグループ経営をさらに強化し 企業価値向上を追求していきます。

平素より当社への格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は2019年6月25日付で社長を交代いたしました。前社長の垣内永次は代表取締役 取締役会長となり、新たに廣江敏朗が代表取締役 取締役社長 最高経営責任者 (CEO) となります。

新会長の垣内は、2014年4月の社長就任以来、各事業の強化と収益構造の改革、新規事業の創出に取り組んでまいりました。2018年3月期までの5年間、当社は5期連続で増収・増益を達成するとともに、2019年3月期までは主力の4事業にて営業黒字を継続し、純資産倍増も実現しました。なお、2017年3月期第1四半期には当社創業以来初の実質的「無借金経営」も実現することができました。

新社長となる廣江は、半導体製造装置事業 (SE) の副社長

のほかグループ全体の開発部門 副センター長、ディスプレイ事業の社長など、さまざまな部門での経験を有しています。ディスプレイ事業時代にはLiB[※]製造装置事業を立ち上げるなど、技術的知見だけでなく新規事業開拓も推し進めてきました。

このタイミングでの社長交代は、来期からの新・中期経営計画を自ら作成し、責任を持って実行して行ってほしいとの垣内の思いによるものです。今後は垣内が取締役会とガバナンス統括を担い、廣江は経営全般、特に事業管理・監督および成長戦略に注力するという役割分担により、グループ経営のさらなる強化に努めていく所存です。

株主の皆さまには、引き続き当社グループへの温かいご支援をお願い申し上げます。

※ LiB: リチウムイオン電池

2019年3月期の業績と株主配当

当期(2019年3月期)の連結売上高は、過去最高の3,642億円(前期比7.3%増)となり、6期連続で増収を達成できました。一方、利益面については営業利益296億円(同30.6%減)、経常利益292億円(同29.2%減)、親会社株主に帰属する当期純利益180億円(同36.7%減)と、いずれも大幅な減益となりました。減益の主な要因は、半導体製造装置事業(SE)における利益低下です。当期のSEの通期売上高は2,525億円(前期比11.1%増)と好調だった前期を上回ったものの、営業利益は258億円(同28.8%減)と前期から大きく低下しました。この主な要因は、サプライチェーンの混乱から変動費率が上昇したことにあります。さらに売上拡大に伴い人件費などの固定費が増加したことも、利益低下の要因となりました。なお、SEの受注に関しては、2017年3月期第2四半期から11四半期連続で500億円以上の高水準が続いており、当第4四半期は想定を若干上回る513億円の受注を獲得しています。

株主の皆さまへの期末配当につきましては、今年1月予想では1株当たり91円とお伝えしましたが、最終的に営業利益・当期純利益が1月時点の予想を上回ったことなどから6円増配し、1株当たり97円で実施させていただきます。

配当金実績および配当予想 (単位:円)

	2019年3月期	2020年3月期 (次期予想)
1株当たりの年間配当金	97.00	97.00

詳細につきましては、以下ウェブサイト「株主・投資家情報」で説明しています。
<https://www.screen.co.jp/ir/dividend>

今後の展望と今期の業績予想

現在、半導体業界ではメモリーが調整局面にあり、2020年3月期の後半までは設備投資の回復が見込みにくい状況です。一方で当社が得意とするファウンドリー、ロジックに関しては、今後も堅調な設備投資が続くと見えています。さらにIoT分野の活況を背景に、200mm対応装置の引き合いが引き続き堅調です。

これらを踏まえ、今期(2020年3月期)の業績は連結売上高3,270億円(前期比10.2%減)、営業利益265億円(同10.6%減)、経常利益240億円(同18.0%減)、親会社株主に帰属する当期純利益180億円(同0.3%減)を予想しています。なお、中国の半導体市場に関しては、米中貿易摩擦の影響や動向を注視しつつ、適切に対応していきます。

今期は中期3カ年計画「Challenge 2019」の最終年度でもあります。売上規模は中計目標である「3,000億円レベル」を達成できる見通しですが、営業利益率については目標の13%に対し厳しい業績予想を発表しております。そのため、主力事業のSEでのサプライチェーンマネジメントの強化や各事業でのVE活動※などによるコスト改善に努め、最後まで目標達成を諦めず、スパートを掛けていきます。

※ Value Engineeringの略。製品やサービスの「価値」を、それが果たすべき「機能」とそのために掛ける「コスト」との関係で把握し、「価値」の向上を図る手法。

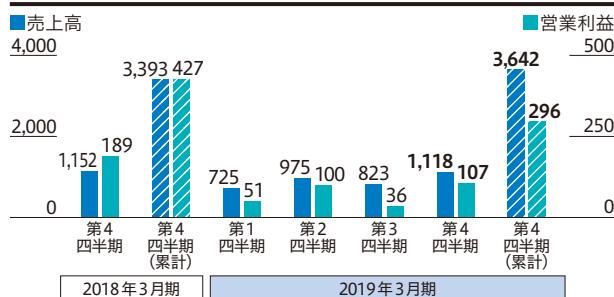
2020年3月期の連結業績予想 (単位:億円)

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
3,270	265	240	180

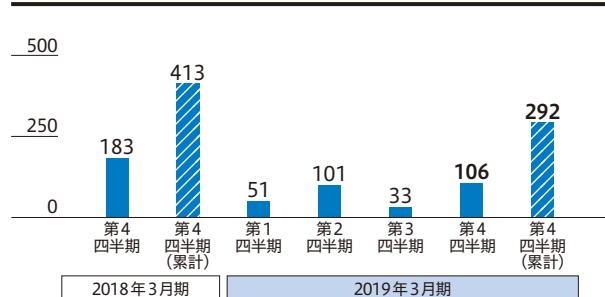
Highlight 連結決算ハイライト

(注) 財務数値につきましては、金額は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入して表示しています。

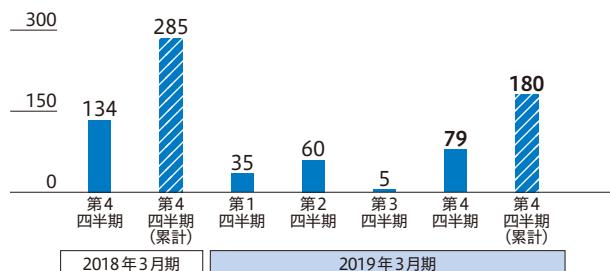
売上高・営業利益 (億円)



経常利益 (億円)



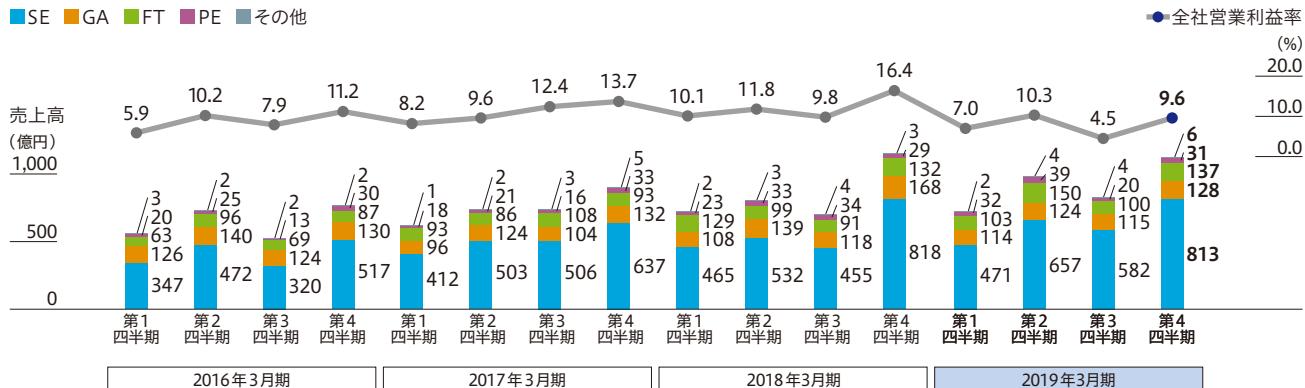
親会社株主に帰属する四半期純利益 (億円)



受注高・受注残高 (億円)



セグメント別売上高・全社営業利益率



Segment

セグメント別業績



SE:半導体製造装置事業

メモリーとロジック向けが増加、
ファウンドリー向けも堅調に推移

売上高

2,525 億円

(前期比 11.1% 増)

営業利益

258 億円

(前期比 28.8% 減)

- 通期では、過去最高の売上高を更新。
- IoTデバイス対応装置(200mm)が好調で増収。
- 売上拡大に伴う人件費等の固定費増加により減益。



GA:グラフィックアーツ機器事業

売上高

482 億円

(前期比 9.7% 減)

営業利益

11 億円

(前期比 62.8% 減)



FT:ディスプレイ製造装置および成膜装置事業

売上高

492 億円

(前期比 8.8% 増)

営業利益

37 億円

(前期比 17.9% 減)



PE:プリント基板関連機器事業

売上高

123 億円

(前期比 1.2% 増)

営業利益

7 億円

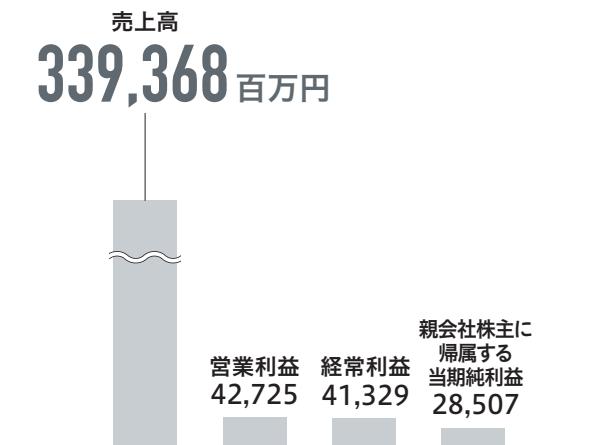
(前期比 24.0% 減)

Financial Data

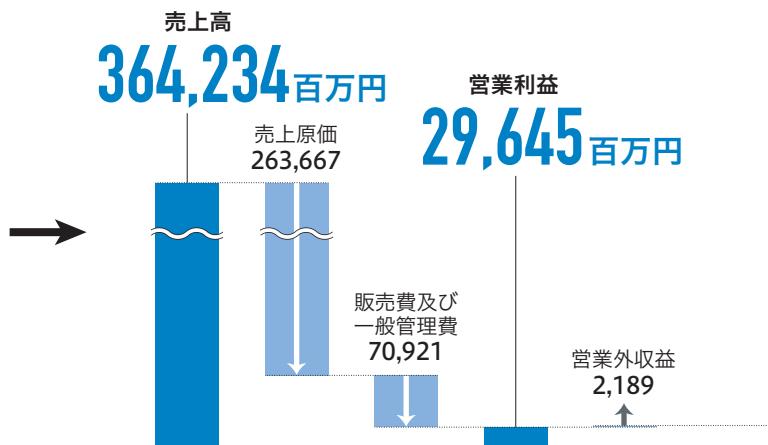
主要連結財務諸表

連結損益計算書

前期累計(2018年3月期)

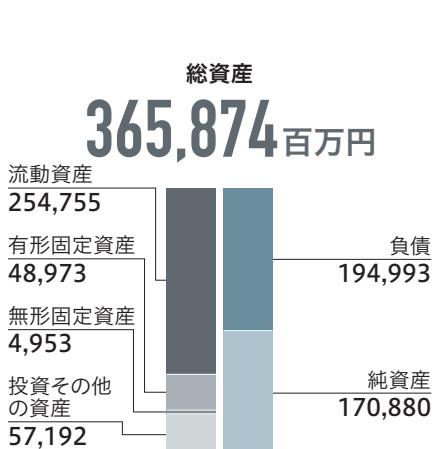


当期累計(2019年3月期)

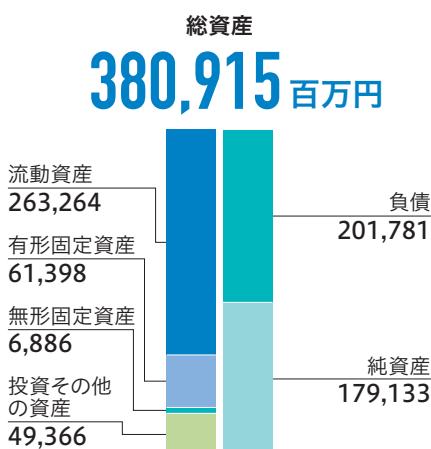


連結貸借対照表

前期末(2018年3月期)



当期末(2019年3月期)



連結貸借対照表ポイント

- 資産合計は、投資有価証券が減少した一方で、売上債権やたな卸資産および有形固定資産が増加し、380,915百万円となりました。
- 純資産合計は、有価証券評価差額金の減少や配当金の支払いの一方で、親会社株主に帰属する当期純利益を計上したことなどにより、179,133百万円となりました。
- 自己資本比率は47.0%となりました。

経常利益
29,279百万円

親会社株主に帰属する
当期純利益
18,059百万円

①
営業外費用
2,555

特別利益
444

②
特別損失
1,993

法人税等
9,677

非支配株主に
帰属する
当期純損失
6

連結損益計算書ポイント

- ① 営業外費用については、固定資産除却損928百万円を計上しました。
- ② 特別損失については、事業構造改善費用1,087百万円、減損損失843百万円を計上しました。

連結キャッシュ・フロー計算書

当期累計 (2019年3月期)

現金及び現金同等物の期首残高

50,817百万円

現金及び現金同等物の期末残高

30,922百万円

営業活動による
キャッシュ・フロー
37,534

投資活動による
キャッシュ・フロー
19,020

財務活動による
キャッシュ・フロー
36,760

現金及び
現金同等物に
係る換算差額
101

連結キャッシュ・フロー計算書ポイント

- 営業キャッシュ・フローは、運転資本の増加、法人税の支払いなどにより、37,534百万円の支出(前期は28,878百万円の収入)、大幅に悪化しました。
- フリーキャッシュ・フロー(営業キャッシュ・フロー+投資キャッシュ・フロー)は、56,554百万円の支出となりました。

Executive 役員一覧 (2019年6月25日時点)

取締役



垣内 永次

代表取締役
取締役会長



廣江 敏朗

代表取締役
取締役社長
最高経営責任者(CEO)



沖 勝登志

常務取締役



灘原 壮一

常務取締役
最高技術責任者(CTO)



近藤 洋一

常務取締役
最高財務責任者(CFO)



安藤 公人

常務取締役



齋藤 茂

取締役(社外)
株式会社トーセ
代表取締役会長 兼 CEO



依田 誠

取締役(社外)
株式会社ジーエス・ユアサ
コーポレーション 相談役



高須 秀視

取締役(社外)
サムコ株式会社
補欠監査役

監査役

常任監査役 太田 祐史

監査役 梅田 昭夫

監査役(社外) 西川 健三郎

監査役(社外) 西 良夫

補欠監査役(社外) 吉川 哲朗

執行役員

常務執行役員 青木 克彦

上席執行役員 上志 正博

上席執行役員 石川 義久

執行役員 河原林 正

執行役員 吉岡 正喜

執行役員 中尾 光一

執行役員 木瀬 一夫

執行役員 樋口 義之

執行役員 宮川 明彦

- 株式会社 SCREEN ホールディングス(新規事業含む)
- 株式会社 SCREEN セミコンダクターソリューションズ
- 株式会社 SCREEN グラフィックソリューションズ
- 株式会社 SCREEN ファインテックソリューションズ

2018年6月

大面積レジスト塗布装置における異物検出方法の発明が平成30年度全国発明表彰「発明賞」を受賞。

2018年8月

洗浄装置3シリーズ、 累計出荷台数7,000台を突破

ウェットステーション「FCシリーズ」、枚葉式洗浄装置「SUシリーズ」、スピンスクラパー「SSシリーズ」の累積出荷台数が合計7,000台を突破。世界シェアでトップを獲得するなど、半導体デバイスの微細化・高集積化を支援。



2018年10月

ロールtoロール方式タンデム型塗工乾燥装置「RT-T700F」を製品化。
リチウムイオン2次電池市場へのビジネス展開を加速。

2018年10月

中国・上海に最新デジタル印刷の 情報発信拠点を開設

中国市場のニーズに応えるデジタル印刷ソリューションを体感できる拠点として「上海デジタルプリンティングデモセンター」を開設。中国における一層のシェア拡大を目指す。



2018年12月

滋賀大学と半導体製造装置のデータサイエンス分野における連携・協力協定を締結。同分野における相互人材育成や共同研究を推進。

2018年12月

世界最大のファウンドリーメーカー、台湾・TSMC社から「Excellent performance 賞(ウェット洗浄装置部門)」を受賞。

2018年11月、2019年1月

彦根事業所内に、 新たな生産工場が完成

半導体製造装置の生産拠点「S³-3(エス・キューブスリー)」、ディスプレイ製造装置および成膜装置の生産拠点「CS-2(シーエスツー)」を新たに建設。
「S³-3(エス・キューブスリー)」は免震構造を採用しBCPおよびBCMの体制を強化するとともに、生産効率を追求。生産能力は従来比150%に増強。「CS-2(シーエスツー)」では大型化の進むディスプレイ製造装置に対応できるほか、より微細化が求められるフレキシブルディスプレイ製造装置の生産に対応。さらなるシェア拡大を目指すとともに、収益性向上と競争力強化を実現。



S³-3(エス・キューブスリー)



CS-2(シーエスツー)

2019年1月

コーポレートサイトをリニューアルオープン。

2019年3月

第10.5世代ガラス基板対応のコーターデベロッパ「SK-3033G」を重点顧客に納入。大型ディスプレイ市場へのビジネスを拡大。

2019年3月

ヒラギノフォントがソースネクスト社の「POCKETALK®(ポケットク)W」に採用。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 3月31日 ※当社は中間配当制度を採用しておりません。
単元株式数	100株 ※2016年10月1日をもって、単元株式数を1,000株から100株に変更し、当社普通株式5株を1株に併合いたしました。
公告方法	電子公告により、当社ウェブサイトに掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話:0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

1. 「特別口座」に記録された株式をお持ちの株主さま

株券電子化までに証券保管振替機構(ほふり)に株券を預託されなかった株主さまの株式は、当社が三井住友信託銀行に開設しました「特別口座」に記録されています。特別口座では、株式の売買が制限されておりご不便かと存じますので、証券会社に開設されました一般口座へ振替されることをお勧めいたします。お手続きの詳細は上記の三井住友信託銀行にお問い合わせください。

2. 単元未満株式をお持ちの株主さま

当社に対して、次の請求を行うことができます。

【買増請求】 単元株式(100株)に不足する株式の買増し

【買取請求】 単元未満株式の買取り

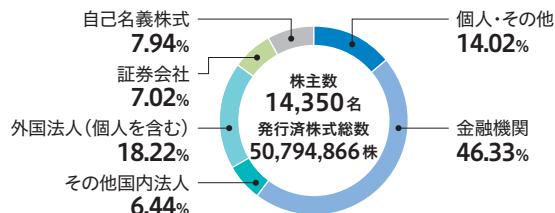
お手続きの詳細は、お取引の証券会社(特別口座が開設されました株主さまは、三井住友信託銀行)にお問い合わせください。

株主さま向けに「彦根事業所新工場見学会」を実施

2019年3月6日、彦根事業所内に完成した新工場の見学会を開催しました。ご参加いただいた皆さまには、製造現場を間近でご覧いただき、新工場の特長をご紹介しました。



所有者別持株比率 (2019年3月31日現在)



個人投資家さま向けウェブサイトのご案内

当社グループの歩み、事業領域、強みやこれからの成長戦略などをわかりやすく紹介するべく、定期的に更新しております。

www.screen.co.jp/ir/indiv

SCREEN 個人投資家 で検索

本誌にて提供する業績予想は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。

株式会社 SCREENホールディングス

〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る四丁目天神北町1番地の1 電話075-414-7233

www.screen.co.jp

SCREEN NOW Vol.109 発行日:2019年6月25日(発行は毎年6月) 発行責任:IR室

本誌では、当社製品(フォント)「ヒラギノ書体」「ヒラギノユニバーサルデザイン書体」を使用しています。

UD FONT
by HIRAGINO



IR-SN-109